



● まろまろ バス遠足

秋のバス遠足が10月19日(土)に行われました。今年は五所川原市の窯場「津軽金山焼」で「陶芸教室」や「ピザ作り教室」を体験したあと、恒例のバーベキューというコースでした。

陶芸教室では、真剣な面持ちで粘土と格闘して、芸術的な作品やそれなりの作品を懸命に作り上げていました。焼き上がってくるのが楽しみです。ピザ教室では、皆さん豪華な手作りピザを完成させ、お土産にお持ち帰り。

今年のバーベキューは津軽金山焼さんが用意してくれた特設会場で開催。好天にも恵まれ、飲み物片手にベンチでゆっくり歓談しました。

売店で、お土産に焼き物などを買い求めた方も多かったのですが、なんと畜産を営むTさんは、牛の巨大金山焼(高さ1m以上あったのでは?)2頭を気前よく注文していました。焼き物の牛が、買ってくれとせがんでいるように見えたとか、見えないとか・・・牛は狒犬のように門に飾るのだそうです。

今回は、4月から県立中央病院血液内科に勤務されている富士井先生と鈴木先生、ドナー体験者として夏の公開講座に出演した荒木関さんも参加していただき、ゆっくりお話を伺うことができました。

(ところで、鈴木先生は、翌日の新婚旅行の準備はちゃんと間に合ったのでしょうか?)

写真は2ページにもあります→



● 第15回市民公開講座 骨髄移植を知ろう が開催されました

11月9日(土)弘前大学において、第15回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」が開催されました。第1部では「がんと食事について」というテーマで、管理栄養士や栄養サポートチーム専門療法士の方がお話してくださいました。

第2部では、県病血液内科山口副部長から「骨髄移植ってなんだろう?」と題して血液と血液の病気そして移植まで、とてもわかりやすく説明していただき、続いて、骨髄提供や骨髄移植の体験者のお話がありました。

ドナーさんのお話では、ドナーとなることへの葛藤ばかりではなく、その体験を通じての感動もあるということを知りました。そして、葛藤の中にいたときに聞いた移植経験者の言葉に勇気づけられたと伺い、涙がこみ上げてきました。また、まろまろ会員馬込賢さんの移植体験のお話しには、参加者から「体験者の話は本当に心にしみる」などの感想が寄せられていました。

また、恒例の青森山田中学高等学校吹奏楽研究会による「いのちのコンサート」は素晴らしく、心に響きました。

もっともっと、若い世代の人たちにもこの講座に参加して欲しいと思いました。私は骨髄バンクに登録してもドナーさんが見つからなかったという経験があり、少しでも多くの方にドナー登録をお願いしたいと願っています。そのためにご尽力されている皆様に深く感謝しつつ、報告いたします。

(リポート まろまろ 前田深雪さん)



♪♪♪ リレーエッセイ ♪♪♪ 第8走者 須藤美由紀さん(サポーター会員)

県病からあすなろに転勤して、なんと7年目を迎えています。それでも忘れずに声をかけてくれた高坂さん、ありがとうございます。

高坂さんと言えば「がんばれ骨髓君」「頑張れ骨髓君」にはたくさんのキャラクターが登場します。高坂さんからイメージ通りだと言っていただきましたが、多くの読者のみなさんに私のコンセプトが伝わったか不安なので解説します。

まずは主人公の白血球の「はくちゃん」です。「はくちゃん」は白血球の中でも最も多い好中球です。外敵が侵入してきたらすぐに駆けつけて身を挺して戦ってくれる勇敢で優しいイメージ。リンパ球はインテリのイメージでメガネをかけています。インテリ=メガネという安直な発想です。血小板の「ケンちゃん」は他の血球に比べてサイズが小さいのでかわいらしいイメージで描いています。その他沢山のキャラクターが登場します。全部説明したいところですが、紙面に限りがあるのでこの辺で終わります。

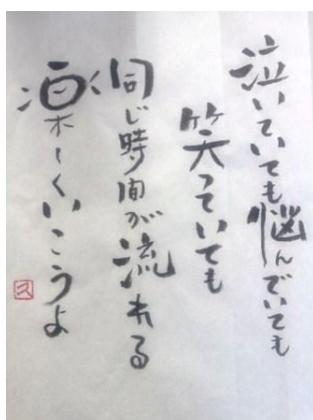
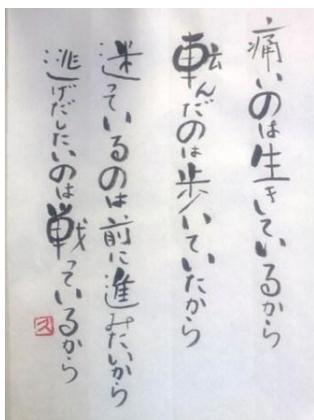
このキャラクターたちを描いていて感じたことは、数えきれない多くの細胞がそれぞれの営みを黙々と続けることで人間は生きているのだという事。人間の脳みそはか弱くて、ショックなことが起こると傷つき、不安を抱えます。人生投げやりになってしまう事もあるでしょう。でも投げやりになっているのは脳みその一部です。そんな時にも心臓くんは拍動を続けているし、腸子さんは蠕動(ぜんどう)しながら消化を続けているし、肝臓も腎臓も体中の細胞が黙々とその営みを続けているのです。そう思うとなんか細胞の一つ一つが愛おしく感じてしまいます。

ところで最近の私ですが、新しいキャラクターを考えました。その名は「こうはく坊」です。骨髓バンクのドナー登録説明員をしている成田さんに声をかけていただいて作ったキャラクターで、紅白帽をウルトラマンかぶりしている子供のキャラクターです。紅白の由来は源平合戦という説がありません。長い間紅白で争っていた時代があって、そんな時代に終止符を打ってみんな仲良く助け合って暮らしたいと思った先人の願いが込められているのが、めでたい席に登場する紅白まんじゅうや紅白の幕ではないか。そんな妄想を膨らませながら描いたキャラクターです。(ちょっと調べたら違うことが書かれていましたが、私の説のほうがロマンチックかな。)

私たちの細胞は種の存続と未来の平和を願って日々働き続けています。ところが最近の日本は平和とは逆の方向を向いているように感じます。こんな時こそ細胞を通して先人の声に耳を傾けなくてはと思います。

さて、このバトンを次に託すのは、新キャラを私に依頼してくれた成田昭一さんです。

→ 細胞的というと、骨髓バンクのドナー登録説明員の活動は、細胞と細胞(DNAとDNA)の再会のお手伝いという事になるのでしょうか。成田さんよろしくお願いします。



会員の小山内久さんの
作品です。

● まろまろ新年会2014のお知らせ

◇とき

平成26年1月25日(土) 午後6時から

◇ところ

ホテルクラウンパレス青森
青森市本町5-5-4 TEL 017-775-1151

◇会費

3,800円



◇お申し込み

同封のハガキでお知らせください。
準備の都合上、1月14日までに投函してください。

お問い合わせは、090-3019-1540(レク担当:成田)、
または090-9634-6703山本まで。



駐車場あります。
ノンアルコールのビールなどもあります。

骨髄バンク情報 (H25年11月末現在)

	全国	青森県
患者登録者数	1,414人	10人
ドナー登録者数	440,369人	5,079人
対象人口千人あたり	7.33人	7.94人(17位)

—資料：(財)骨髄移植推進財団—



● 青森県がん患者支え合いフォーラムが開催

日本人の2人に1人ががんに罹ると言われる現代。がんを知り、がんと向き合い、がんを乗り越えられる社会をめざして、支え合いの力を。

11月17日から12月1日にかけて、弘前市、むつ市、八戸市の3会場に於いて、各地域の「がん診療連携拠点病院」と患者・家族会等が協力してフォーラムが開催されました。

青森県がん・生活習慣病対策課が主催したのですが、各会場では医療関係者の講演に続いて、患者・家族会や拠点病院から活動報告があり、併せて交流コーナーやミニ相談会などが行われました。



◇ ご寄付いただきました

田畑 富雄 様 金100,000円

このほかロビーチェアへの募金(50,000円)も頂戴いたしました。
活用方法について相談の上、大切につかせていただきます。ありがとうございました。

血液疾患と歩む患者・家族の会 まろまろ

<事務局連絡先> 青森県立中央病院 血液内科 外来
TEL 017-726-8141 FAX 017-726-8083
〒030-8553 青森県青森市東造道2-1-1

県病HP <http://www.aomori-kenbyo.jp/ketsueki>
ブログ <http://maromaroaomori.cocolog-nifty.com>
Twitter http://twitter.com/maromaro_aomori

